

令和6年2月5日

世田谷区立多聞小学校
学校運営委員会 委員長 佐々木 浩 様
校長 小泉 一弘 様

世田谷区立多聞小学校 学校関係者評価委員会
委員長 石井 正子

令和5年度 学校関係者評価委員会 報告書

世田谷区立多聞小学校学校関係者評価委員会は、よりよい教育活動が展開されるよう、外部アンケートならびに学校自己評価点検をもとに、本年度の教育活動全般を評価し、次年度の改善に向けた報告書を作成しました。

学校及び学校運営委員会においては、これら報告内容を受け止め、問題点の対策を検討し、学校運営の改善に生かしてください。

1. 評価資料概要

1.1. 外部アンケート

- ・ 対象 保護者・児童（5・6年）・地域
調査実施日 令和5年10月17日～10月31日
- ・ 配布数 児童 195件 保護者 581件 地域 37件
- ・ 回答数 児童 151件 保護者 283件 地域 33件
- 回答率 児童 77.4% 保護者 48.7% 地域 89.1%

1.2. 学校自己評価

対象 本校全教員 37名

2. 外部アンケートの概況

外部アンケートの全項目について、回答選択肢、A「とてもそう思う」B「思う」C「あまり思わない」D「思わない」E「分からない」のそれぞれの割合を求め、回答選択肢 A「とても思う」B「思う」のパーセンテージの合計を肯定的評価とし、C「あまり思わない」D「思わない」の合計を否定的評価とした。

委員会では、本調査結果に加え、授業参観や行事への参加、ヒアリング、ホームページ閲覧などを行い、その結果を世田谷区教育委員会作成の「学校評価システム」の評価項目に基づき、令和5年度多聞小学校の学校経営計画より、以下に示した「目指す学校像」「重点目標」に沿って報告する。

2.1. 令和5年度 学校経営計画

令和5年度 多聞小学校 学校経営計画より

I 目指す学校像 『自己肯定感を育む学校』
一人一人が個性を発揮して活動に取り組む → 達成感・充実感を味わう
→ 自己肯定感を高める → 主体的実践意欲がたかまる

II 重点目標

- ① 考える子ども…すすんで学び、他者との交流を通して深めた考えを表現する子ども
- ② 助け合う子ども…他者の思いに共感し、思いやり、助け合う人間性豊かな子ども
- ③ たくましい子ども…心身ともに健康で、粘り強く課題に立ち向かう子ども

2.2. 児童アンケート回答結果について

【回答率について】

アンケート回答率の数値が77.4%であり、昨年度の94%から16.6ポイント下降していた。アンケートの実施状況について副校長から実施した教員に確認してもらったところ、「児童がWeb上で一斉に回答する時間枠をとったが、回答済みかどうかを目視できるまで徹底されていなかった」とのことだった。児童の率直な意見を反映させるためには、教員が児童に回答を強要したり、回答内容を傍で見たりしている状況は望ましくない。しかし、アンケートの趣旨を丁寧に説明し、納得を得ることで回答を促すことは可能であり、次年度は、より多くの児童が自発的にアンケートに回答できるような環境を整えて対応して下さることを期待したい。

【アンケート評価の状況】

20のアンケート項目のうち13項目で80%以上の児童が肯定的評価をした。肯定的評価80%未満が7項目で、50%未満はなかった。

1) 昨年度より肯定的回答の数値が大きく上昇した項目

・「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」では肯定的評価が72.7%と昨年度52%より20.7ポイント上昇している。

コロナ禍による制限が緩和され、中学生との交流が再開できるようになったことがポイントの上昇につながったと思われる。

今年度はクリーン作戦などの行事を中学生と一緒に実施することができ、先輩と関わる機会が得られたことは児童にとって中学校の生活への不安を緩和し、期待を高める効果があると思われる。

2) 肯定的回答が80%以上ではあるが、昨年度より、6ポイント以上、下降した項目

・「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」では、肯定的評価が 87.3%と昨年度 94.6%より 7.3 ポイント下降している。

昨年度は、タブレットが導入されて対面授業の中で活用されるようになり、教師のそれまでとは異なる新しい工夫により授業の方法が大きく変わったことが認識されやすい状況にあったと思われる。しかし、タブレットの使用が定着し、ICTを活用した授業が当たり前になってきている昨今の状況の中では、タブレットや映像を使用しているだけでは「工夫」とはとらえられず、「わかりやすい」にも直結しない。児童自身が ICT を使いこなすようになっている状況の中で、教員が児童のスキルの向上に対応して、授業の質を上げていく工夫が求められている。

・「先生に注意されたことは、理解できる」では、肯定的評価が 84.9%と昨年度 93.2%より 8.3 ポイント下降している。

昨年度より下降はしたが、8割を超える児童が肯定的評価をしているので、学級経営上の大きな問題にはならないと思われる。本年度アンケートに回答した児童はコロナ禍の中で、対面でのコミュニケーションや集団活動を制限されながら学校生活を送ってきているので、制限が緩和され、より広く様々な活動が可能になると、教員に指導や注意を受ける場面も増えることになり、素直にすべてを理解できるとは言えない状況が増えるのはやむを得ないのかもしれない。教員にはそのような児童の実態を理解した上で、指導を工夫していくことが求められる。

・「学校生活は楽しい」では、肯定的評価が 83.0%と昨年度 89.8%より 6.8 ポイント下降している。

昨年度は、徐々に通常の学校生活を取り戻せたことが「楽しい」という評価につながっていた。今年度も、学校行事については、昨年度と同じ数値を維持しているので、ここで下がった「学校生活」とは、授業や日々の繰り返される学校生活、友だちとの関係についてと考えられる。学校教育におけるさまざまな活動がコロナ以前の状況に戻って実施できるようになり、児童によっては、積極的な参加を求められることや、集団で活動すること、それによって、学校生活が忙しくなっていることに負担を大きく感じていることがあるのかもしれない。学校は学びの場であり、子どもにとっては学校生活のすべてが楽しい活動であるとは思えないが、教員は 2割近い子どもたちが「学校生活は楽しい」とは思えない状況にあるのだということを念頭に、子どもたちの負担に配慮しながら、学ぶことが「楽しい」と思えるよう工夫を重ねていく必要がある。

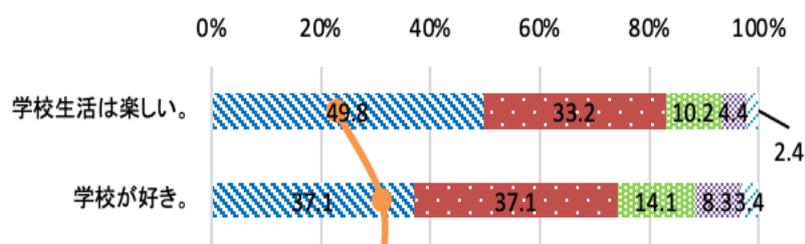
3) 肯定的評価が 80%未満であり、更に昨年度より数値が下がった項目

・「自分の生き方や将来のことについて、考えられる授業がある」では、肯定的評価が 68.7%と昨年度 78.2%より 9.5 ポイント下降している。

この項目の下にある「目標を持ち、その実現に向けて努力している」については、肯定的評価が 87.3%と昨年度に引き続いて高い数値である。「自分の生き方や将来」という文言が、小学生にとっては、抽象的でわかりにくく、よほどこのテーマを意識づけるような授業を行わなければ、この設問に「とてもそう思う」とは回答しないように思う。「自分の生き方や

将来のことについて」考えることは重要であるが、もう少し具体的な設問で評価を求めたいところである。

・「学校が好き」では、肯定的評価が 74.2%と昨年度 78.1%より 3.9 ポイント下降している。この設問は、「学校生活は楽しい」と関係しているはずで、学校生活が楽しければ、学校が好きになってもよさそうなものであるが、実際は「学校生活が楽しい」の肯定的評価は 83.0%なのに、「学校が好き」に対する肯定的評価は 74.2%で、「児童の 4 人に 1 人が否定的評価となっていることについては、目を向ける必要がある。行事も楽しい、学校生活も楽しい、しかし学校は好きではないという子どもたちがなぜそう思うのか、より児童一人一人が抱える問題に目を向けながら、学校を好きになれない子どもたちの気持ちに向き合っていくことが求められる。



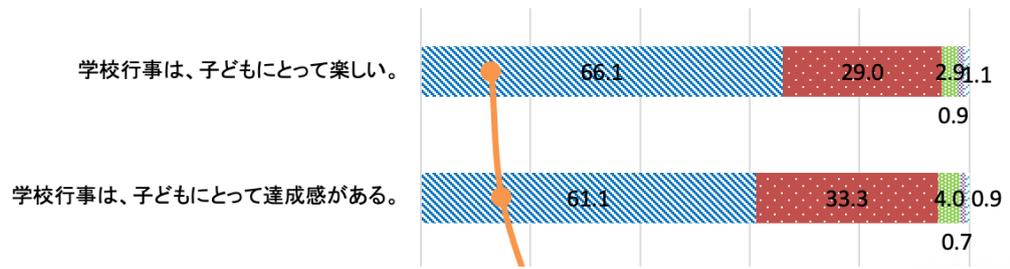
2.3. 保護者アンケート回答結果について

【回答率について】

今年度のアンケート回答率は 52%であった。昨年度の 33%から 19 ポイントアップしている。平均的な Web アンケート回答率は 30%~50%と言われており、決して低い数値ではない。しかしながら、学年毎、クラス毎の途中経過をお知らせする等の工夫次第で、さらに回答率を上げる事も可能になると思われる。作年度 93.5% 1.2 ポイントアップ 作年度 93.5% 0.9 ポイントアップ がある

【アンケート評価の状況】

・肯定的評価の割合が最も高かった項目は「3. 学校行事について」の 3 項目である。特に、「学校行事は、子どもにとって楽しい」95.1%、「学校行事は、子どもにとって達成感がある」94.4% は、いずれも昨年度の数値も高かったが、さらにそれを上回る高評価となった。

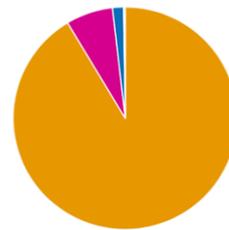


学校行事については、合わせて学校が行った行事後のアンケート結果も見ていきたい。

令和5年度 丘の運動会アンケート

必須 Q1 運動会の練習や本番を通して、子どもたちは達成感を味わえていましたか。

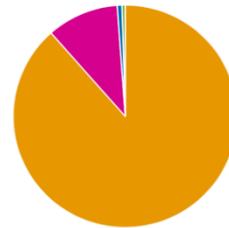
回答	回答数
思う	405
少し思う	30
あまり思わない	7
思わない	1



● 思う: 405 (91%) ● 少し思う: 30 (6%)
 ● あまり思わない: 7 (1%) ● 思わない: 1 (0%)
 ● 未回答: 0 (0%)

必須 Q2 運動会の練習や本番を通して、子どもたちの成長はみられましたか。

回答	回答数
思う	392
少し思う	46
あまり思わない	3
思わない	2

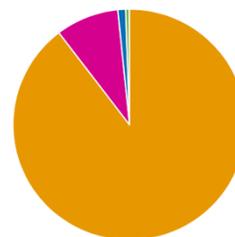


● 思う: 392 (88%) ● 少し思う: 46 (10%)
 ● あまり思わない: 3 (0%) ● 思わない: 2 (0%)
 ● 未回答: 0 (0%)

令和5年度 丘の学芸会アンケート

必須 Q1 学芸会の練習や本番を通して、子どもたちは達成感を味わえていましたか。

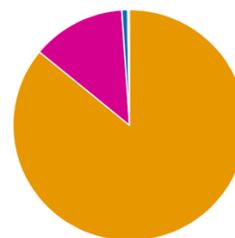
回答	回答数
思う	338
少し思う	33
あまり思わない	4
思わない	2



● 思う: 338 (89%) ● 少し思う: 33 (8%)
 ● あまり思わない: 4 (1%) ● 思わない: 2 (0%)
 ● 未回答: 0 (0%)

必須 Q2 学芸会の練習や本番を通して、子どもたちの成長はみられましたか。

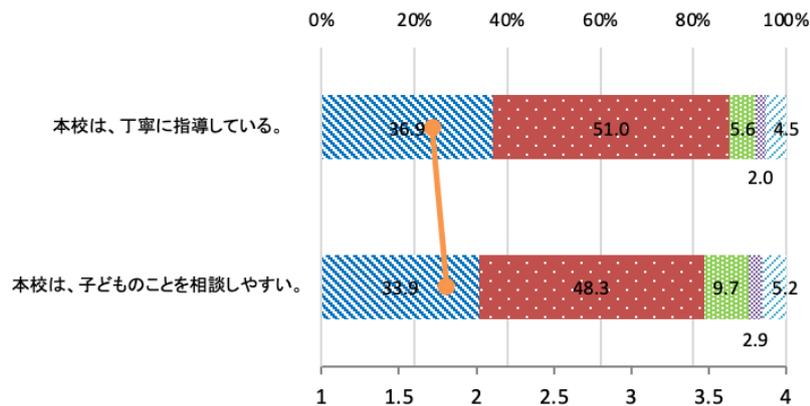
回答	回答数
思う	324
少し思う	49
あまり思わない	3
思わない	1



● 思う: 324 (85%) ● 少し思う: 49 (12%)
 ● あまり思わない: 3 (0%) ● 思わない: 1 (0%)
 ● 未回答: 0 (0%)

運動会、学芸会の様子をアンケート結果から読み取ると、子どもたちが達成感を味わえたと感じている保護者が97%であり、「練習や本番を通して子どもたちの成長がみられた」の項目も97%が肯定的回答をしている。準備期間も含め、保護者が子どもたちにとって大変有意義な時間であったと感じていることがわかる。行事については、児童の評価も肯定的であり、本校の行事が見せるために形を整えるものではなく、児童自身が達成感を持てるように工夫され、その努力の成果が保護者にしっかりと伝わっているということが言える。

今年度は、在籍児童数が増加し、行事の参観人数が増えたため、当日の混雑が心配されたが、コロナ禍の下で‘入れ替わり参観’というスタイルが構築されていたため、スムーズに各学年の保護者が入れ替わりながら我が子を近くで見られるよう工夫されていた。学校側の対応力のおかげでどの行事も満足度が高いイベントになった。



・「5. 教職員について」の2つの項目もいずれも80%を超える高評価である。特に、「本校は子どものことを相談しやすい」の肯定的評価が今年度は82.2%で、昨年度に比べ8ポイント上がっていることは特筆すべき成果である。保護者会や授業参観が通常通り開催されるようになり、学校へ足を運ぶ機会が増えたことで、先生との距離が近くなったことが「子どものことを相談しやすい」という評価が上がった一因であろう。

・「7. 学校からの情報提供について」の4項目中3項目で、80%を超える高評価を得ている。また、3項目で、昨年に比べて5ポイント～10ポイント高評価が増加しており、改善の成果が顕著である。

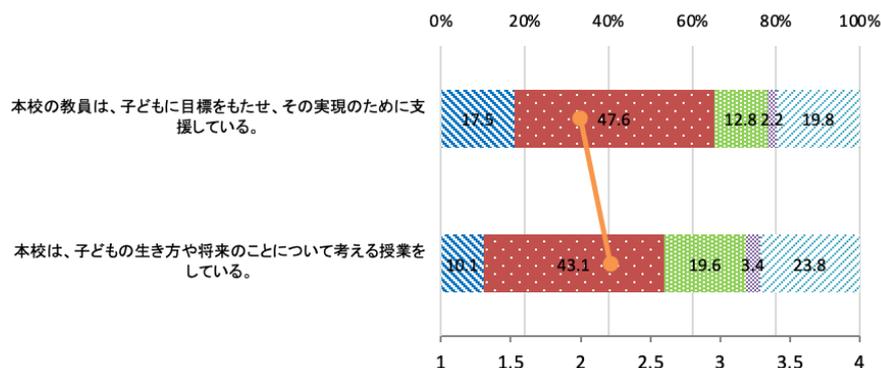
この結果については、「たもんラジオ (たもラジ)」というオンラインでのトーク配信の影響が大きいのではないかとと思われる。たもラジは、今学校で起こっていることがリアルタイムでわかる他、校長先生の人柄や考えていることが放送内容から伝わり、親しみのある開かれた学校、というイメージ作ることに繋がっている。

また、保護者への手紙にポップでかわいい絵を用いたものが多く、それにより保護者が興味を持ちやすくなり、また、外国にルーツのある保護者の方にもわかりやすい取り組みをされていることが高評価に繋がったと考えられる。

・「1. 学習指導について」の4項目の中では、「本校は映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の評価が、今年度73.7% 昨年度63.6%で、10.1ポイント上昇している。児童においては、同様の項目で評価が下がっているのと対照的で、これは保護者が子どもたちがタブレットの使用に慣れ、家庭学習でも使いこなすようになってきている様子から判断しているためではないかと推測される。

・「4. キャリア教育について」の項目では、「子どもに目標を持たせ、その実現のために支援している」という項目の肯定的評価は65.1%で、昨年度の70.6%から、5ポイント下がった。一方、これまで肯定的評価の数値が低いことが問題視されていた「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」という項目で、肯定的評価が昨年度48.2%より5ポイント上昇し、53.2%となり、半数を超えた。保護者が学校のより具体的な実

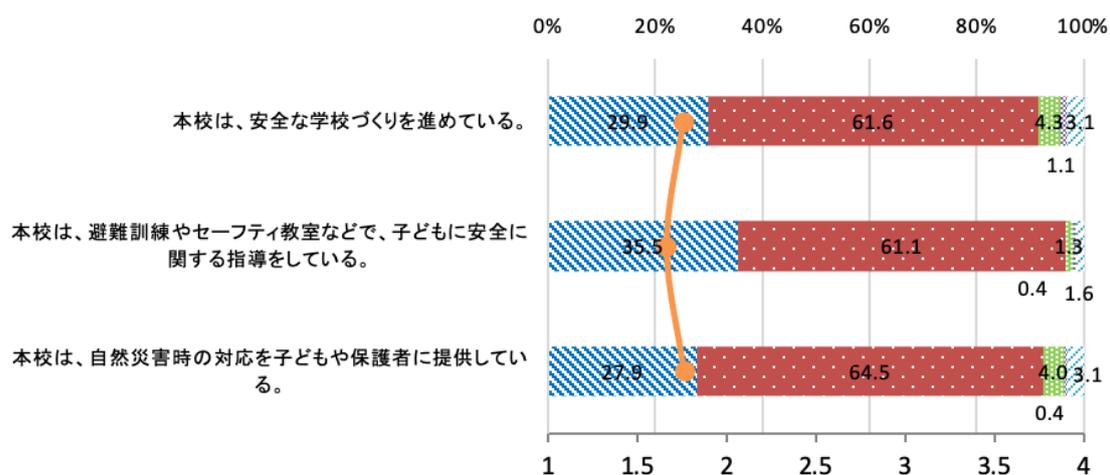
践の成果を評価している結果ではないかと思われる。



・「11. 学校の安全性について」の項目でも「本稿は安全な学校づくりを進めている」並びに、「本校は、避難訓練やセーフティー教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」では、昨年度、今年度と連続して肯定的評価が90%を超える高い数値である。

さらに、昨年度、やや肯定的評価が低かった「学校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」の項目でも、今年度は92.4%の肯定的評価を得ており、昨年度の79.9%から、12.5ポイント上昇している。昨年度の数値をふまえて、学校からの情報発信の方法を改善した成果が数値に現れている。

・唯一、昨年に比べて顕著に評価が下がった項目としては、「6. 全般について」の中の、「子どもは家庭で自主的に学習している」の項目で、昨年度に比べ7ポイント肯定的評価が減少し、64.3%にとどまっている。これについては、家庭で過ごす時間が減り、学校でいろいろな活動ができるようになったことが一因として考えられる。



2.4. 地域アンケート回答結果について

【回収率について】

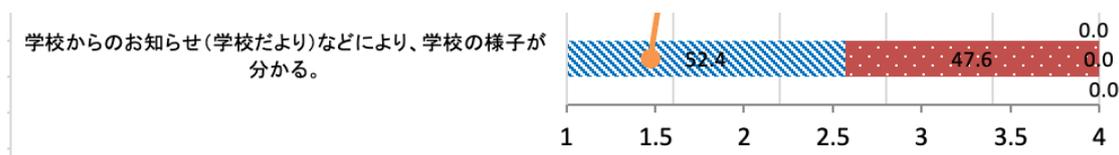
本年度の回収率は 89.1% で、昨年度の 56% に比べ大幅に増加している。

コロナ禍によって縮小せざるを得なかった地域との交流が復活してきた事、学校が積極的に地域に向けての情報発信を行っていることの成果である。回収方法を Web, 紙媒体の両方で提出可能へと改善したことも回答率を引き上げた一因と考えられる。

【アンケート評価の状況】

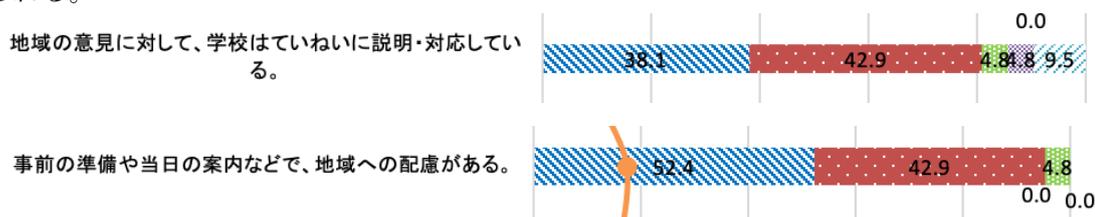
・ほぼすべての項目で、昨年度から比べて、肯定的な評価が大幅に増加している。

特に、「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」では 100% が肯定的評価を示している。



昨年度より 20 ポイント以上も上昇した項目として「事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。」(今年度 95.2 昨年度 70.6 24.6 ポイントアップ)「学び舎」の活動について、情報が提供されている。(今年度 85.7% 昨年度 64.7% 21 ポイントアップ)

16 ポイント以上アップした項目として「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる」(今年度 81 昨年度 64.7 16.3 ポイントアップ)「地域の意見に対して、学校はていねいに説明、対応している。」(今年度 81 昨年度 64.7 16.3 ポイントアップ)があげられる。



意識的な学校の働きかけ、情報提供が有効に作用している結果と受け止められる。

また、学校協議会が開催され、地域の方の意見を受け止めてくれる場が戻ってきたことに対する安心感の表れではないだろうか。また、会議では校長が意見を真摯に傾聴する姿に信頼感を得ていると感じられる。

3. 学校自己評価の概況

学校自己評価については、すべての項目で、教員全員が肯定的評価を選択しており、教員が自信をもって、日々の教育活動に取り組んでいると言える。評価の数値を項目間で比較すると、児童や保護者の数値の高い項目においては、自己評価も高く、相対的に低い項目は教員の自己評価も低い傾向となっており、自己評価が客観的に適切に行われていることを示唆する。

最も評価が高かった項目は、生徒指導に関わる項目であるが、中でも「私は児童の意欲を大切にしている」（評価平均 3.57）、「私は注意した児童に、何がいけないのか、なぜいけないのか理解できるように指導している」（3.54）等は、目指す学校像にむけての「主体的実践意欲」につながる指導である。きまりを守らせるだけでなく、児童の意欲と主体性を大切にしておられることを高く評価したい。

「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かるように内容を工夫している」（平均評価 3.54）、「私は、学校公開や個人面談保護者会等で学校生活の様子を知らせ情報共有を図っている」（評価平均 3.54）等、保護者との情報共有や連携に力を入れていることも外部評価との一致に寄与していると思われる。

また、「私は他の教員と協力して教育活動に取り組んでいる」（評価平均 3.54）、も肯定的評価が高い項目である。規模が拡大している本校において、教員同士の連携は、安心、安全で質の高い教育の維持には不可欠であり、現在の安定した学校運営の基盤として学校組織全体のチームワークのよさがあるのではないだろうか。

4. 今後に向けて

以上、児童・保護者・地域の方々からのアンケート調査回答結果と日々の教育活動を踏まえて行った、分析、評価の結果をまとめ、今後に向けての課題を示す。

まず、最初に児童に行ったアンケートにおいて「1. 学習について」のすべての項目で、昨年度に引き続き90%前後の肯定的評価が得られていることは特筆すべきである。授業を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことは、学校教育に求められる最も重要な使命であり、この4項目について高い評価を維持していることは、本校の教職員によるたゆまぬ授業改善の努力の成果と受け取ることができる。この点については、保護者も80%以上が「本校は、子どもの考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」として評価しており、本校の教育の質の高さを児童も保護者も実感していると捉えることができる。

次に、児童、保護者共通する学校行事への評価の高さも特徴である。今回の外部アンケートにおいても、学校が独自に行ったアンケート結果でも、運動会、学芸会を通して児童自身が達成感を感じ、保護者が子どもの成長を実感している。学校行事の目標は、「望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる（小学校学習指導要領 第6章 特別

活動)」とされているが、その前提として、児童が行事を「楽しい」と感じること、「達成感」を持ち、自ら主体的に参加することが大切であり、押し付けられたものであってはならない。

その点、本校の行事は児童の主体性が尊重され、その成果を保護者が実感しているという点を高く評価できる。

また、学校からの情報提供について、保護者の評価も、地域の評価も非常に高い。校長が率先して、「たもんラジオ」等のユニークなチャンネルを活用して、学校の取り組みを公開することで、リアルタイムのフィードバックも得やすくなり、教員の日々の振り返りと改善への努力を継続するモチベーションにつながっている。また、保護者や、地域の方々には「開かれた学校」のイメージが定着し、教育活動への理解・協力も得やすくなる。

キャリア教育に関する項目は、児童においても、保護者においても肯定的評価が 50%台～70%台の項目を含むが、この時期の子どもたちにおけるキャリア教育として何を行うかは比較的新しい課題であり、急激な社会構造の変化に適応するために何が必要なのか、今後の研究と取り組みの工夫を継続していくことが求められる。

学校自己評価の結果には、教員が「目指す学校像」の実現にむけて、協力して取り組んでいること、またその取り組みに自信を持っていることが表れており、組織として安定した状況にあると思われる。保護者への情報提供や、家庭との連携にも力を入れており、そういった努力の成果が、高い外部評価の維持につながっている。

最後に、児童のアンケートにおける「学校が楽しい」の肯定的評価がやや低下していることと、「学校が好き」の評価が 75%をきっていることは、やや気になる結果である。学校が楽しいと思えない児童や、学校が好きではない児童がいること自体は、学校が児童の好きなことだけを楽しく行って過ごす場ではなく、苦手なことに取り組み、困難に挑戦し、課題を乗り越える体験のなかで、成長していく場である以上、やむを得ない。しかし、コロナ禍の収束以後、全国的に不登校の児童が急増し、また ICT の活用が進む一方で、「ゲーム依存」等新たな問題を抱える児童が増加してきており、子どもたちの生活の実態の変化は思いのほか急激なスピードで進んでいる。現状では様々な取り組みが功を奏して、好循環を生み出しているが、今後も常に現状を振り返り、目の前の子どもたちの状態に合わせた改善を怠らずに、質の高い教育活動を求め続けて行っていただきたい。

以上